

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

多文化社会に生きるリージョナル（地域の）リーダーからグローバルリーダーの育成へ。

- 1 学ぶ力をつける……生徒の学ぶ意欲を向上させて確かな学力を身につける。
- 2 人間力をつける……知・徳・体のバランスのとれた人間性を育み、人間力をつける。
- 3 地域から信頼される学校をつくり、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。
- 4 学校の組織力の向上と活性化

2 中期的目標

多文化社会に生きるリージョナル（地域の）リーダーからグローバルリーダーの育成のために

1. 学ぶ力をつける 次期学習指導要領を見据えて、生きて働く「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現等」の育成をめざす。
 - (1) 生徒の学ぶ意欲を向上させ確かな学力を身につけるために、正課授業の集中度を高める。アクティブラーニングや授業形態の工夫、観点別評価等で、生徒の授業へのさらなる意識向上を図り、授業満足度の向上と授業力の向上（「桜塚教科スタンダード」の実現）をめざす。
 - (2) 朝学（総合基礎）の充実を図り、基礎的・基本的な学力の確実な定着・充実に努める。家庭学習習慣の定着。放課後や長期休業中の学習機会を確保・拡大していく。
(自習室、講習)
 - (3) 専門コース（グローバルスタディコミュニケーションコース [GSC] とグローバルスタディサイエンスコース [GSS]）制を生かし、生徒の学力の更なる効果的な向上を図り、第一希望の進路実現を図る。国公立大学や「関関同立」など難関私大への進路希望の実現に寄与し、国公立 50 名以上「関関同立」250 名以上の合格を目標とする。
 - (4) ICT 機器である電子黒板とタブレット型端末を有効に活用することで、「よりわかりやすい授業」を行い生徒の学力（特に、英語を中心としたコミュニケーション能力）の向上に資する。また、外部講師による希望生徒向け英検対策講座を導入することで、より英語の力を向上させる。
※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「授業はわかりやすい」に対する肯定的評価の 75% を更に向上させ今年度には 80% にし、平成 31 年度には 80% 以上を維持する。
2. 人間力をつける
 - (1) 人間関係構築の第一歩として、あいさつがさらにしっかりと行われる学校をめざし、「あいさつ運動」を実施すると共に遅刻数を減少させる。
 - (2) 教育相談体制の充実。「生徒一人ひとりを大切にする」本校の教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的にを行い生徒相談機能を高める。
 - (3) 地域連携・地域貢献活動・国際交流活動を行うことで異世代・異文化との交流に生徒が参画し、教員は活動を支援・促進する。
 - (4) 部活動、自治会活動等を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。
 - (5) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし更に有効有意な関係を構築する。
※ 学校教育自己診断におけるそれぞれの評価活動を点検し、生徒の人間力を高める計画の立案と実行を図る。
(進路相談・教育相談への生徒評価及び自分の成長を実感する項目で、5% 上昇をめざす)
3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する
 - (1) 創立 80 周年を生かし、OB・OG、豊中市役所をはじめとする公的機関、大学、各種団体との連携と支援を生かした取組みを展開する。
 - (2) 平成 24 年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を発展させ、東日本大震災の被災地に寄り添い連携する態度のさらなる涵養を図り、持続的な支援や交流を行う。
 - (3) WEB Page を更に見やすくし、更新を頻繁に行う。生徒も、WEB Page の部活動・自治会活動部分の更新等に参画。中学校訪問や学校説明会等を開催して広報活動を積極的に行う。
※ 学校教育自己診断において生徒の自己評価の低かった地域活動をさらに周知し、生徒の力に替え、地域の信頼の一層の獲得を図る。現在の 70% を維持する。
4. グローバルリーダーの育成
 - (1) 国際社会で通用する人材を育成するため、異文化や習慣の違いを尊重する精神を育む為に国際交流を積極的に進める。長期、短期の留学生を積極的に受け入れる。
 - (2) 国際的なコミュニケーション能力を育成するために、国際的共通語としての英語のコミュニケーション能力の育成に努める。「めざす学校像」を実現させる為に、専門コース制を生かし、より英語や理数系科目を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。
※ 今年度以降も英語圏への海外語学研修を継続して実施し、アジア圏への異文化研修も積極的に実施する。修学旅行も可能な限り海外に行くことをすすめる。
5. PDCA サイクルにより学校の組織力の向上と活性化
 - (1) 運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。
 - (2) 「学校組織運営に関する指針」に基づく学校運営を行うために、学校運営の基盤となる種々の内規等の整理・改善を行う。
 - (3) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。
 - (4) ノークラブデー、全庁一斉退庁日の実施。残業時間月平均 80 時間未満の厳守。
 - (5) ミドルリーダーの育成。経験の浅い教職員への OJT 等の充実を図る。
6. 個人情報等の適正管理
 - (1) 個人情報等の適正管理をめざす
 - (2) 備品等の適正管理をめざす

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学ぶ力をつける	(1) 授業力の向上、 観点別評価 桜塚教科スタンダード の実施 (2) 総合基礎(朝学)の 充実。家庭学習習慣の 育成と定着 自習室・講習の充実 (3) 専門コース制の活用・ 充実 (4) ICT機器等の有効活用	(1) 「授業力向上等検討委員会」で、研究授業(電子黒板等 ICT 機器を取り入れた研究授業も含む)や教員相互の授業見学等の計画実施。・授業アンケートの1回目を課題把握、2回目を成果検証と位置づけ授業改善を推進する。各教科等でも改善策等を協議する。・「桜塚授業スタンダード」を内規にも位置づけ、指導方針を毎年確認し、指導の徹底を図る。 (2) 実施後3年間の結果に基づき、更に学校をあげて組織的に取り組み、基礎的・基本的な学力の確実な定着充実に努める。1年次に勉強合宿を実施するとともに各教科の放課後講習等を充実させる。・「学習確認カード」を作成し、担任とクラブ顧問協同による自宅学習習慣の育成と定着に学校あげて取り組む)・夏季や冬季の長期休業時にも講習を組織的に計画し実施する。1学期終了段階で各教科のやり直し補講等を行い、2学期以降の随時・個別の指導や生徒の家庭学習活動を支援・強化する。原級留置者数0をめざす。 (3) 専門コースが学校全体を牽引し、学力の更なる効果的な向上を図る。 (4) 電子黒板やタブレット型端末等 ICT 機器を有効に使用することで、「わかりやすい授業」を行い生徒の学力の向上に資する。	(1) 生徒向け学校教育自己診断結果における授業満足度平均で3%向上(平成28年度72.2%) ・授業アンケートの1回目と2回目の比較において平均での上昇 (2) 担任とクラブ顧問協同による自宅学習習慣の育成と定着に取り組む。 ・自宅学習をそれぞれの学年単位で設定した目標時間を達成する。 (3) ・センター試験において各科目とも全国平均との比較での向上 (4) 英検・漢検等の資格取得者数増加と英語能力判定テストの成果向上。授業アンケートの教材活用の項目の昨年度比向上	
2 人間力をつける	(1) 「あいさつ運動」の 推進、遅刻数の減少 (2) 教育相談体制の 充実 (3) 地域貢献・国際交流 活動等への参画 (4) 部活動の充実 (5) 定時制との互惠 関係の充実	(1) 学校全体でさらにあいさつが活発になされるよう、啓発を推進する。・時間を順守することの大切さを再確認する。 (2) 「生徒一人ひとりを大切に」本校の教育を推進し、生徒相談機能を高める。・きめ細かく丁寧にカウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行う。 (3) 地域貢献、国際交流等の実施 (4) 部活動を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。 (5) 教職員が協力することで同じ施設を共有する仲間意識や互いを思いやりあう意識を養っていく。・全定相互の授業見学や共同の消火訓練等の実施。自治会活動の全定連携も視野に入れ、全定生徒の交流行事等も検討する。	(1) 学校教育自己診断結果における関連項目での肯定率70%以上を維持(28年度73%)前年度遅刻数の1割減 (2) 学校教育自己診断結果における関連項目での肯定率平均4%向上(平成28年度56%) (3) 年間3回以上の実施 (4) 教職員向け学校教育自己診断関連項目90%以上を維持(28年度98%) (5) 定時制との関係に関する質問を設け、肯定的回答50%以上を維持。(平成28年度51%)	
3 地域連携・ 広報	(1) 豊中市各機関との 連携、オール桜塚による 支援、大学等との連携 (2) 岩手県大槌高校 「さくら協定」 (3) 生徒も広報に参画、 中学校等訪問、学校説明 会実施	(1) 豊中市等との連携を深め国際理解教育や人権教育活動への積極的な参画を推進する。・創立80周年事業として、生徒、OB、教員が一体となった地域連携を進める(例えば、枝垂れ桜の一般公開)。大阪大学、関西大学との連携活動の継続 (2) 相互訪問の実施 (3) 生徒も、WEB Page の部活動・自治会活動部分の更新等に参画。中学校訪問や学校説明会等を開催して広報活動を積極的に行う。	(1) 満足度85%以上維持(平成28年度90%以上)・肯定的回答70%以上を維持(平成28年度74.1%)キャリア教育と進路実現に繋げる (2) 年1回以上の相互訪問や生徒への趣旨説明 (3) WEB Page を月に5回以上更新する。学校説明会参加者数の増加。(平成28年1500人)	
4 グ ロー バ ル リ の 育 成	(1) 国際交流、留学生等の 受け入れ (2) 英語検定・TOEFL 等の 資格取得	(1) 国際交流を積極的に推進し、英語圏への語学研修を引続き実施する。異文化研修や海外修学旅行をすすめる。長期・短期留学生の受け入れ。 (2) 外部講師による希望生徒向け英検対策講座を導入。専門コース制の導入により英語と理数系科目の強化。	(1) 海外語学・異文化研修、海外修学旅行をすすめる。留学生受け入れ (2) 英検校内実施とともに英検準2級以上の資格取得数を平成28年度334名の維持	
5 組 織 力 の 向 上	(1) 課題に対する基本的な 方向性の確立 (2) 内規等の整理・改善 (3) 学び続ける組織的 人材育成 (4) ノークラブデー、全 庁一斉退庁、残業時間 (5) ミドルリーダー、経 験の浅い教職員育成	(1) 学校全体の立場から意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立する運営委員会をめざす。 (2) 学校運営の基盤となる種々の内規等の整理・改善。 (3) 分掌・委員会の活性化と時間短縮に努め、活動を活発に行う。そのために会議録を作成する。委員会は年間の会議開催計画を作成する。 (4) ノークラブデー、全庁一斉退庁日の徹底。全職員残業時間月平均80時間未満 (5) 校内研修の更なる充実を図り、日常的なOJTの推進に努める	(1) 教員向け学校教育自己診断関連項目肯定率80%以上を維持。 (2) 内規等の整理と改善の実施。 (3) 分掌・委員会の時間記録。 教員向け学校教育自己診断関連項目肯定率+5%(28年度は59.4%) (4) 全職員残業時間月平均80時間未満 (5) 校内研修を実施し問題意識を共有する。教員向け学校教育自己診断関連項目肯定率+5%(28年度は52.5%)	
6 適 正 管 理	(1) 個人情報等の適正 管理 (2) 備品等の適正管理	(1) 個人情報の漏えい、紛失、損傷等を防止するため、「大阪府教育委員会における個人情報の取扱い及び管理に関する要綱」等に準じて個人情報を適正に管理する (2) 備品等の適正管理のため、各室管理者による室内備品管理を実施する	(1) 個人情報の適正管理に関する研修を年1回以上実施する (2) 各室の備品等管理簿(配置図含む)を作成し、引き継げる体制を整える	